

2011年度 自然災害シンポジウム

古津波をさぐる

—地層・伝承・古文書から—

日時：2012年2月23日(木) 13:30-17:15

場所：北海道大学学術交流会館大講堂 (札幌市北区北8条西5丁目)

アクセス JR「札幌駅」下車、徒歩10分

市営交通・地下鉄南北線・東豊線「札幌駅」下車、徒歩15分

主催：自然災害協議会北海道地区部会

共催：北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター
地方独立行政法人北海道立総合研究機構防災研究会

* 本シンポジウムは防災担当者や専門の方を対象としておりますが、関心のある市民の方も歓迎いたします

* 英語講演には通訳があります 入場無料

プログラム

13:00 開場

13:30-13:50 西村裕一 (北海道大学)

「北海道の古津波 ～研究の現状と防災への課題～」

13:50-14:10 平川一臣 (北海道大学)

「千島海溝・日本海溝の過去6000年間の超巨大津波履歴：
波源域、スーパーサイクルを考え直す」

14:10-14:30 高清水康博 (新潟大学)

「地層学とアイヌの口頭伝承から過去の巨大津波を探る」

—休憩—

14:45-15:15 キャサリン・シャギーゴフ (ニューサウスウェールズ大学 /
オーストラリア原子力科学技術機構, オーストラリア)

「史実だけではない：様々な指標から古津波を知る」

15:15-15:35 菅原大助 (東北大学)

「地層と古記録から復元した貞観・慶長津波のすがた」

15:35-16:05 ブリアーニン・マキネス (北海道大学)

「千島列島における過去3000年間の津波履歴」

—休憩—

16:15-17:15 総合討論